

子どもと保護者と教職員とともに考える！



人権フォーラム新聞



令和5年7月4日発行第3号

1年生では、6月16日に県人権教育指導員の松野一郎さんを講師でお招きして、『障がい者の地域生活について』という演題で講演をしていただきました。講演会は、『心のバリアをなくす』ことについて考える、非常に有意義な時間となりました。また、講演会を通じて、お子様の理解と共感が深まり、多くの気づきと学びが生まれました。授業後のお子様の感想を読んで、私たち教員もともに学ぶ喜びや、お子様の心の成長を感じております。今回は1年生が学習後に書いた感想を各家庭に持ち帰り、それを読まれた保護者の皆さまの感想を掲載して、子どもと保護者と教職員で考える機会にしたいと思います。

保護者の皆さまの感想より



- ★人権講演会で、障がいのある人が、安全に生活ができるために必要なものを理解し、どのように接したら良いのか気づかされたようです。これから、学んだことを行動に活かせてもらいたいと思います。
- ★障がい者の方が困っていて、お手伝いを頼みづらそうにしていたら、自分自身が今できること、お手伝いをできることをやれば良いと思いました。感想文を読みましたが、今の気持ちを大切にこれからも人に優しく、自分も大切にして成長していったらと感じました。
- ★講演を聞いて、自分なりにできる事は何かを真剣に考える事ができていると思いました。普段の生活の中で、子どもと一緒にできる事から始めてみようと思いました。
- ★普段、障がい者の方と関わる機会もなく、自宅でも人権について話し合う事もないので、人権講演会は子どもにとって良い機会になったと思います。今回学んだことを、これからの生活にいかしていってもらえたら良いと思いました。
- ★普段、学校と家庭の狭い生活範囲の中では、聞くことは出来ない講演を拝聴させていただきました。“どうしていいかわからない”から助けになりたい気持ちがあっても行動に移せないという気持ちから、どのように行動に移せばよいか知ること、行動する勇気を持てるのだと感じました。自分の周りのあたりまえから、もっと視野を広げていってほしいと思います。

★貴重な時間，機会をつくっていただきありがとうございました。自分の中の「違い」を知ることで「普通」とは何かを考え，普通は一人ひとり違うということを知ることで優しくなっていけるのではないかと私は思います。子どもたちが考え，思うという時間は本当に大切だと思います。今後ともよろしくお願いします。

★障がい者の方の事を真剣に考えていて，自分の決めたことを実行できたら良いと思います。

★私たちが住むつるぎ町は，高齢者が大変多く，またハンディキャップのある人たちも存在しているのが現状です。子どもたちにもそれらについてざっくりと周知していたことと思いますが，感想文を読ませてもらうと，より具体的な単語および内容が呈されており，福祉サービスの重要性を学ぶ事ができたのだと感じました。大変貴重な学習をさせてもらい感謝しております。

★障がい者の事について子どもと話したことがなかったことに気づきました。でも，感想になにか助けられることがあればお手伝いしたり，あたたかい目で見たいと書いていたので講演会を通して勉強になったと思いました。私たち親も子どもに教えてもらった気がしました。

★これまで自分の感覚で生活してきて，気づかなかった障がいのある方々の不便さを想像したり知ったりすることが出来ました。自分以外の人のことや違う立場の人の考え方や気持ちを考えられるようになってほしいと思います。

教職員の感想より

貞光中学校では，人権教育に力を入れて日々取り組んでいます。授業中お子様の意見や考えを聞いて，日々の人権学習の取り組みを通じて成長していると感じています。今回の松野一郎さんのお話を聞く姿勢は真剣で，この講演会を通じて，自分にできる事は何かや自分事として考えるきっかけとなりました。そんなお子様の感想に自らを振り返る感想があり，「ちがい」を個性として捉え，相互尊重の大切さを理解し，多様性を受け入れる心が育まれていると感じました。また，4月は自分の思いを自ら発表することが苦手だったお子様が，仲間と人権学習に真剣に取り組むことで，自分の意見や感情を表現する方法を考える姿や他人の意見を受け入れる姿勢が少しずつ見られるようになりました。このようなお子様の成長は，私たち教職員にとって非常に喜ばしいことです。さらに，ご家庭でも人権問題や障がい者差別について話をしていただけることが，お子様にとっても，学校から家庭へと学びをさらに深めていく大事な機会になると思います。今後も一緒に力を合わせ，お子様たちの成長を支えていきたいと思ひます。



SDGs目標 10「人や国の不平等をなくそう」

